



関中央ロータリークラブ

2019-2020 WEEKLY REPORT

例会日：毎週木曜日 18時30分 例会場：関観光ホテル 住所：岐阜県関市池尻 91-2
 事務局：関市西本郷通 5-2-53 TEL (0575) 24-7332 FAX (0575) 23-5278
 会長 吉田和也 副会長 高井良祐 幹事 土屋敏幸 クラブ会報委員長 長谷川修

2019~2020年度 関中央ロータリークラブ会長テーマ

「One for all, All for one.

協力しあい成長するロータリー！」



4つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

本日のプログラム 第1989回例会 2019年9月19日(木)
 「東海北陸道グループIM報告」 / 担当 会長・幹事

前例会の記録 第1988回 2019年9月15日(日)
 『東海北陸道グループIM』 担当 会長・幹事

日時 令和元年9月15日(日)
 会場 各務原市産業文化センターあすかホール
 ホスト 各務原中央ロータリークラブ

*各務原太鼓保存会 演奏



*点鐘 ガバナー補佐 深瀬清様
 *国歌『君が代』斉唱
 *ロータリーソング『奉仕の理想』斉唱

*歓迎の挨拶

ホストクラブ会長 石黒敦様



皆さん、こんにちは。本日は、IMを開催しましたところ、お忙しい中、辻ガバナーをはじめ、たくさんの方にご出席頂きありがとうございます。心より歓迎申し上げます。今日は、「人生100年時代を迎えて」もうひとつのロータリアン達～地域コミュニティで深化する～というテーマで、講演を頂きたいと思います。昨日の新聞によりますと、100才以上の人口が7万人を超えたそうです。割合は、女性が9割、男性が1割だそうです。この統計が始まったのが1963年で当時は150人でした。それから、1万人になるのに約25年かかり、その頃から急激に100才になる人が増え、毎年増加しているそうです。あと10年後くらいには18万人くらいになり、益々増えていくそうです。社会的にも個人的にも今までと違った福祉や医療、介護など変化が必要となってくるかと思っています。本日はそういったことについて長縄先

生からお話が聞ければと思っております。本日この時間が皆様にとって有意義な時間となることを祈念しまして、私からの歓迎のご挨拶とさせていただきます。

*来賓・特別出席者・参加クラブの紹介

ガバナー補佐 深瀬清様

*ガバナー挨拶

第 2630 地区ガバナー 辻正敏様

本日は、東海北陸道グループ IM を開催され、またお招き頂きましたこと、大変うれしく思っております。



今から 100 年前に、東京に初めて日本に RC が出来ました。100 年を記念しましてガバナー会から 34 地区に金色の鐘を作って頂きました。台座がありまして、2630 地区のクラブの名前が列挙してあります。

今日は、先輩ロータリアンでもある長縄先生の講演「人生 100 年時代を迎えて」もうひとつのロータリアン達～地域コミュニティーで深化する～ということで、興味深いお話を聞けるということで楽しみにしております。ロータリーも非常に変化しており、ある方に言わせると縛りがゆるんでいる、ある方によると誰でもが入りやすい様に変化しているという両面で変化をしているといえますが、こういった機会が、ロータリーを変化させていく大きなエネルギーになっていくことを期待しております。本日の開催につきましてご尽力いただきました深瀬ガバナー補佐、ホストクラブの各務原中央 RC の皆さんに感謝申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

*各務原市長挨拶

各務原市長 浅野健司様

皆さん、ようこそ各務原市にお越しくださいました。昨年は各務原かかみの RC がホストクラブという



ことで、各務原市に 2 年連続でお越し頂いている方もおみえになるかと思えます。各務原市内では、3 つの RC に活動を展開して頂いております。昨年は各務原かかみの RC の防犯パトロール隊の方の発表、今日は長縄先生の「人生 100 年時代を迎えて」という講演をうかがいます。各務原市の行政事業の一つとして 100 才長寿祝い事業というものを行なっております。100 才になられた方にお祝いや感謝状を持

ってお祝いに伺う事業ですが、長生きの秘訣を聞くと、毎日の軽度なスポーツ、食事、クラブサークルなどに積極的に参加するなどの答えが返って参ります。各務原市も人口減少という大きな課題を抱えている最中でございます。自然災害などの場合には、地域の関わりが大切であり、共助の部分強調しながら色んな施策に取り組んでおります。この IM を契機に第 2630 地区の更なる発展を祈念申し上げ、歓迎のご挨拶とさせていただきます。

*本日のテーマと IM の趣旨説明・講師紹介

IM 実行委員長 澤野悟様

*基調講演

特定医療法人・社会福祉法人 フェニックス

医師・薬剤師 長縄伸幸様

「人生 100 年時代を迎えて」

もうひとつのロータリアン達

～地域コミュニティーで深化する～



私は名古屋市立大学を卒業後、小児外科医として勤務していました。主な研究テーマは小児の悪性腫瘍で多くの患者さんの治療に没頭していました。その中で「たっくん」と呼ばれる誰からも愛されていた 2 才の患者さんの終末期に、長い間付き添っていた母や妹の姿が突然消え、やがて疲労困憊した父親が一人に見守られ、悲しい別れの姿に強い衝撃を受けました。例えこの子の命が救えなくても、その経験が他の患者さんに役立てられることが医療者の使命であると誰でもが思っていた頃の話です。しかし家族崩壊の気配に全く気付かず、自分の未熟さとその方達の一度しかない人生を真剣に考えていたかととても悔やまれる経験でした。

その後、1988 年に私のふるさと各務原市に診療所を開設することになりました。「医療はすべからく地域医療であるべきで、地域を抜きにした医療はありえない。あえて地域医療というのはいかに地域がないがしろにされているかということの裏返し」地域医療の先駆者である若月先生の言葉が今でも私の心の支えです。

開業にあたり、医療の常識を超えた医療機関を目指し、病気にさせない医療機関を目指すことにしました。病気にさせない医療、予防、リハビリ、検診、

在宅医療に力を注ぎました。開業後少し余裕が出来た1995年に医師会の先輩から、各務原中央ロータリークラブに入会のお誘いがありました。地域に尽くせばロータリアンとして立派に役割を果たせるという言葉が私の背中を強く押してくれました。入会当時の日本は超高齢化社会に向け、団塊世代をターゲットにした国を挙げた新ゴールドプランが着々と進められており、医療、福祉の大転換のはじまりでした。開業直後より、積極的に訪問診療を行いました。制度上は未整備のままで、全て手探り状態でした。人は加齢とともに病気を繰り返し、介護が必要となってきます。男性は3~4回、女性は5~6回のサイクルを経て一生を終えると言われていました。超高齢化社会を迎えるにあたり、医療の役割も大きく変化しています。命を救う従来の医療の役割は段々小さくなり、在宅における生活を支える医療や介護サービス、そして住民同士の支えがとても重要となってきました。地域包括ケアシステムです。生活の中で考えると出前のように目立ちませんが、ささやかに生活を支えている、それがこれからの医療であり続けなくてはならないと思っています。

2007年に大きな転機を迎えました。当時は施設の開設が半年以上延期を余儀なくされました。やがてリーマンショックによって景気が後退し、かろうじてスタッフを獲得できましたが、その体験で、スタッフの個々の能力を高め、少数精鋭生産性向上を図ることにしました。分業化した先発、中継ぎというような今の現代野球から、誰でもどこでも守り攻めるといふ近代サッカーのような組織編成です。今後100年で3000万人近くに人口が減少すると言われていました。その今後100年間における凄まじい人口減少は誰も経験したことのない未知の世界です。そこで、私どもはスタッフのキャリア支援を表明し、実行しています。この様な私どもの取り組みが岐阜県子育て支援エクセレント企業8社に選ばれ、さらに翌年には内閣総理大臣表彰を受けました。またスタッフの人材教育でも、岐阜県介護養成事業者の最高グレードに認定されました。現在、団塊世代が全員75才になる2025年に向け、それを支える地域づくり地域包括システムの構築が急務ですが、介護・リハ

ビリテーション、福祉などで高齢社会を支えることは不可能です。生活支援、住まいと住まい方、さらに本人の選択、どう自分が生きて、心構え、ある意味では覚悟する決意です。そういうような地域力の市民の意識革命が必要であると私たちは痛感しています。私が55才になった2002年に自分の健康と障がい者のリハビリを目的に卓球を始めました。その成果は著しく、動体視力、視野、体幹バランスに著しく効果がみられました。岐阜県の障がい者卓球大会で今まで最高年齢で金メダルを獲得されたニュースは同じ境遇で卓球をリハビリにして頑張っている障がい者の皆様に、大いに勇気を与えることになりました。

日本は既に超少子高齢社会に突入していますが、地域格差があり、千差万別です。各自治体においてはどのようなコミュニティーを創造するか、地域特性を生かしたプラットフォームビルダーになることが国から要求されています。要するに基礎自治体次第であるということになるかと思えます。今までと違って、きめ細かく制限するのではなく、おおむね出来る枠を、そして将来に合わせてこういう方向へもっていくという地域デザイン機能をもたなければならぬと言われていました。高齢化問題は、日本だけでなくアジア各地でもみられると言われていました。老いるとは喪失することであると言われており、誰でも加齢とともに身体的喪失、社会的喪失、精神的喪失がきますが、個人によりその程度や速度は千差万別です。加齢による現象を補うものとして選択、補償、最適化の3つが挙げられています。

地域とは現役から関わるのがいいといわれています。助走をつけるということが有効であるとのこと。人生100年時代を迎えて、老いとともに地域に限定して、輝き続ける生涯現役ロータリアンの実現も夢ではないと思います。現役の若いロータリアンはグローバルな活躍、少し楽をしたくなったロータリアンはローカルな活躍も一つの選択肢ではないでしょうか？本日は私のささやかな経験から日本のそして地域の課題をお話させて頂きましたが、今後活躍されてみえるロータリアンのかたのご参考になれば幸いです。

*カウンセラー講評

パストガバナー 木村静之様

今回は各務原中央ロータリークラブがホストということで、深瀬ガバナー補佐、澤野 I M 実行委員長を



はじめ各務原中央ロータリークラブの皆様には大変お世話になりました。本日のテーマはいかに社会に役立つかということであったかと思えます。我々ロータリアンは基本的に職業人の集まりであり、職業として事業としていかに利益をあげるということを当然考えるわけですが、ロータリーは奉仕という形でまさにフレデリック・シェルドンの「継続的な事業の発展のためには、自分の儲けを優先するのではなく、自分の職業を通じて社会に貢献するそういう意図を持って事業を営むことが大切である」こう述べていわゆる職業奉仕という考え方の基礎を作ってそれがロータリーの理念の幹になったわけです。それが、このシェルドンの言葉が、ずっと現在までロータリーのモットとして続いております。長縄さんのお話をお聞きしまして、職業奉仕の考え方を実践しておられると思えました。現在の社会状況超高齢化社会諸問題に対応するような医療と介護、様々な工夫をしておられます。私が驚いたのが、卓球療法、高齢者が生きがいを持って元気に過ごしていくそういう工夫をこらしておられること、事業として医療や介護をやっておられる中で、人材育成などさまざまな工夫をされて、表彰を受けられておられます。まさに生涯現役を目指す、高齢者の生きがいを作る高齢者の社会参加を促すための分野ということで、広く活動を続けておられるということで、大変感銘を受けました。頂きました資料で「老後への挑戦」と書いてありました。いい言葉だなと思い、色々なところで、これから使わせて頂きたいと思えます。

*次期開催クラブ発表 ガバナー補佐 深瀬清様

*次期開催クラブ代表挨拶

郡上長良川 RC 会長 和田良一様

*閉会の挨拶・点鐘

ガバナー補佐 深瀬清様

本日は国際ロータリー第 2630 地区東海北陸道グループの I M 開催にあたりまして、ご多忙にも関わらず



多数の方にご参加頂きまして、心より感謝申し上げます。本年度の R I テーマは『ロータリーは世界をつなぐ』、地区テーマは『総天然色』であります。それぞれのクラブが、それぞれ地域の独自性を保ち、更に広い範囲で、世の中でのよりよい変化を目指しながら、人々が手を取り合って行動を始めようということから、今回のテーマとなりました。ロータリアンもそうでない人も地域社会で可能な良い変化を生むために、人々が手を取りあって行動する世界を目指していきましょう。本日はご出席頂きまして本当にありがとうございました。地区内ロータリークラブの発展と皆様のご活躍、ご健勝、ご多幸を祈念申し上げまして挨拶といたします。本日は誠にありがとうございました。

<次例会の案内>

第 1990 回 2019 年 9 月 26 日 (木)

卓話 関市役所 都市計画課課長補佐 川合貴士様
テーマ「建築物耐震診断のすすめ」

担当 ロータリー情報委員会